

2023年度 第1回

長崎大学経済学部

ファカルティセミナー

標記セミナーを下記要領にて開催いたします。教職員、大学院生、学部学生の参加をお待ち申し上げます。ぜひ奮ってご参加ください。

記

日時：6月16日(金) 15:30～17:40

場所：経済学部 新館101教室

第1報告 (15:30 - 16:30)

報告者：小林佳世子 氏 (南山大学経済学部)

演題：ヒトの持つ合理性とは何か～「適応合理性」から考える

要旨：

伝統的な経済学が前提としてきた「超合理性」と、今日大きな注目を集めている行動経済学が前提としているとされる「限定合理性」は、互いに相反する概念のように扱われている。そんな中で、超合理性と限定合理性を繋ぐ、「適応合理性」という概念を提唱する。

いわゆる「超合理性」とは異なる行動傾向を示すことがよく知られた最後通牒ゲームの実験を題材として、ヒトが持つ合理性の根底を探ることで、進化の中の「適応」という視点からみた合理性こそが、ヒトが持つ合理性であることを主張する。

第2報告 (16:40 - 17:40)

報告者：本西泰三 氏 (関西大学経済学部)

演題：Translating Financial Literacy into Action: The Crucial Impact of Recognizing Financial Greed
(小林佳世子氏との共著)

要旨：

人々の金融行動を改善するうえで金融リテラシーの重要性がしばしば指摘される。しかし既存の

研究の結果は、知識の向上が実際の金融行動の改善につながることを必ずしも示しているわけではない。この研究ではウェイソンの4枚カード問題の枠組みを用いて、サーベイ実験を通じて集めたデータをもとに分析を行う。その結果、金融における他人の強欲さを人々に気付かせることによって、金融リテラシーに基づく合理的な金融行動を促すことができる可能性があることがわかった。この効果は認知能力が低い人々にも働くことも明らかになった。

以上

問い合わせ先：経済学部 森保洋 (moriyasu@nagasaki-u.ac.jp)